



微妙な力加減が難しいところ...

親交深めた体協発足記念行事

● 福智町体育協会発足記念カローリング大会

旧 3町の体協が統合し、福智町体育協会が発足した記念のカローリング大会が3月4日に金田体育館で開催されました。開会式では「町全体で親睦を深める良い機会にしてほしい」と池長界会長があいさつ。地域から参加した36チームは、子どもから大人までわきあいあいと競技を楽しみ、福智町としての一体感がより高まったようでした。結果は次のとおりです。▼優勝/月光▼準優勝/あられ▼3位/金田三区。



いよいよ台車に新車両が積まれる瞬間

春色の車両がやってきた

● 平成筑豊鉄道新型車両組み立て

4 月から運行する「へいちく新型車両」が、3月10日に金田駅に到着しました。工場から駅まで、大きなトラックで運ばれた色鮮やかな新車両が、大勢の関係者に見守られながら命を吹き込まれます。トレーラーの荷台から、あらかじめ線路の上に準備した台車まで、2台の巨大クレーンで慎重に運ばれて組み立てられました。この車両は3月25日にお披露目され、一般公募した愛称が発表されます。楽しみです。



林務局選管委員長から当選証書の授与

無投票で委員14人が決定

● 福智町農業委員会委員一般選挙

農 業委員会委員一般選挙の告示が2月13日に行われ、14人の定数丁度の立候補があり、公選による委員が無投票で決定しました。2月19日に選挙管理委員会から当選証書が渡され、その後議会をはじめ各団体推薦の委員6人も決定。旧町から引き続き38人で発足した福智町農業委員会は、今回で20人となり、3月16日の役員選出で、会長に仲島澄男さん(伊方)が就任しました。詳しい内容は来月号でお伝えします。



思い出の合唱曲に思わず涙(金田中)

希望を胸に涙の巣立ち

● 町内3中学校卒業式

共 に支え合い、歩んできた仲間との最後の学校行事となった卒業式が、3月15日に町内の各中学校で行われました。この日、9年間の義務教育を修了した卒業生は268人(赤池中102人・金田中85人・方城中81人)。それぞれの学校で、今までの思い出を振り返った答辞が述べられ、笑いあり、涙ありの思い出深い式典となりました。保護者と恩師が見守る中、生徒たちは学舎に別れを告げ、新たな一歩を踏み出しました。



講演後、足跡を訪ねた織井青吾さん(中巻)

方城大非常の秘められた真実

● 炭坑の歴史から福智町の未来を考える講演会

日 本最大の炭坑爆発事故といわれる方城大非常。大正三年に三菱方城炭坑で発生した大惨事です。過去にこの事故について執筆した作家の織井青吾さんを講師に迎えた講演会が、3月18日にほのぼの館で開催しました。「炭坑と方城大非常」と題した講演で、公表被災者数が発生当初から減少し続けた背景や実際はゆうに千人を超えたと推察される死者数についてなど、往事に思いをはせながら謎が解き明かされていきました。



72歳の彼女が語る今までの人生経験談

「現場からお伝えしました！」

● 福智町文化講演会

突 撃リポーターとしておなじみの東海林のり子さんを招いた文化講演会が、3月16日に中央公民館金田分館で開催されました。普段は現場で事件取材する立場の東海林さんが、この日は一変し、ご自身やご家族のさまざまな「事件」をユニークに会場へ伝えました。東海林流・健康の秘けつは「笑うこと」だということに約100人の参加者を笑いの渦に巻き込みんだ東海林さん、始終笑顔が絶えない講演会となりました。



満開を楽しみにしながらの周辺整備

20kgを背負い満開に向け準備

● 虎尾桜ボランティア周辺整備

虎 尾桜を心配する世話人會(熊合信孝会長)による校の周辺整備が3月4日に行われました。会員をはじめとする13人が福智山登山道入り口に集まり、20kgもある土壌改良材を1人ひとりが担当しました。急な山道を登り虎尾桜と対面した参加者は、周辺の草を刈って、土壌改良材を散布。毎年の整備のあいあつてか、今年のおぼみもふつくと色づき、まるで虎尾桜が「早く咲きたい」と語りかけているようでした。



まごころを伝える対応を学べた研修会

プロの接客を窓口業務に反映

● 町職員接客マナー研修

町 職員を対象とした接客マナー研修が2月22日に役場本庁で開かれました。客室乗務員を17年間勤めた西藤孝子さんを講師に招き、言葉遣いや対応の基本を学習。住民の視点に徹した講師の指摘を受けて「無意識のうちに行っていた自分の悪い点に気づきました」と自分を振り返る職員も多く、2回の研修に約150人が参加しました。今後、町では職員研修を充実させ、行財政改革と住民サービスの推進を図る方針です。